

MUSICIAN

®

2012 1
January

今月の新刊・新製品S.NEWS



映画

特集

K-ON!
けいおん!

今度はスクリーンで大活躍!!

松竹・配給 12月3日(土)全国ロードショー ©かきふらい・秀文社 桜高軽音部

ピアノ・ソロ NHK 世界ふれあい街歩き

BSプレミアムおよび総合で大人気の旅番組「NHK 世界ふれあい街歩き」が、ピアノ・ソロ曲集として遂に登場! 作曲家でありジャズ・ピアニストの村井秀清本人によるセルフ・アレンジで、おなじみのテーマ曲や挿入曲があなたの弾くピアノで甦ります。村井秀清による作曲時のアイデア話や演奏アドバイスはもちろん、番組プロデューサーから寄せられた番組作りのこだわりや、ナレーションを担当している俳優・矢崎 滋さんからのコメントなど、今まで語られる事なかった貴重な情報も満載! 【曲目】世界ふれあい街歩き main theme / Postcard from / a little ballerina / Good man, Happy Dog / me & whistle / twinkle moments / from the bell tower / KUNPUH / main theme pf solo ver / 全9曲



- 菊倍 56頁 定価1575円(本体1500円)
- 作曲・編曲: 村井秀清
- 提供: 全音楽譜出版社
- 表紙の曲集を1名様にプレゼント! (プレゼントコーナー参照)

アンサンブル
楽器演奏の醍醐味は合奏ですよ！

<http://mids-player.net> で合奏に挑戦しよう!!

滝口コーチのアレンジ譜と対応した音源をアップしたホームページで、合奏に挑戦してみませんか!! 全てのパート別に音源が用意され、自分のパート音源を聞き譜面を見ながら練習したり、自分以外のパート音をバックに合奏にも挑戦できます。

ミズ合奏挑戦講座

「アンサンブル 仕組み知りつつ いとおかし……」

第1回 アンサンブルとは!?



滝口亮介 (たきぐちりょうすけ) 作・編曲家/音楽指導家

現職 洗足学園音楽大学准教授/国立音楽大学講師/NPO法人ミズ音楽のある生活促進委員会理事。神奈川県鎌倉市生まれ。国立音楽大学音楽学部作曲学科卒業。(故)高田三郎、島岡謙の諸氏に師事。ピアニストとしてフリーで都内を中心にライブ活動が続けるとともに、中学校・高等学校音楽科検定教科書の著者として多くの教材を開発。また多くの合唱・吹奏楽等の作・編曲に従事。ミズ・ポップス楽団コーチ。

主な作品 マーチ「アメージング・プロローグ」(The Amazing Prologue 吹奏楽) / 「マイ・ティア・エルトン」(My Dear Elton 吹奏楽) / 「あいたくて」「時を越えて」「限りあるたったひとつの生命だから」「メッセージ」(混声合唱) / 歌曲集「トロイメサ〜」・幼稚園 小・中学校校歌 (江東区、台東区、荒川区、三鷹市ほか)

●アンサンブルは“心の握手”

アンサンブル (ensemble) の和訳は「合奏」や「合唱」です。また少人数編成の合奏団 (合唱団) を示す言葉でもあり、少数の仲間との音楽を通した“やりとり”的なニュアンスを感じさせてくれます。だからタイトルに“心の握手”という言葉を示してみました。

さて、心が通っていればそれで良い、というわけではありません。アンサンブルには掟 (おきて) があります。それは次のようなものです。

- ①2人以上でやる。
- ②相手からの発信を無視してはいけない。
- ③複数でやる以上、共通のビート (拍) やアーティキュレーション (音の切り方や次の音とのつながり) を共有しなくてはならない。
- ④自分のパフォーマンス (演奏) には全責任を負う、しかもその能力を維持するために常に習熟を図っていなければならない。

つまり相手あっての自分ですが、相手に依存し切っちゃいけないよ! ということです。“心の握手”の陰にはこんな厳しい掟 (特に④など) があるのです。

●それでも楽しいアンサンブル

厳しい掟と齟齬しましたが、それは「気軽に音楽を楽しむこと」と「充実した演奏をすること」とは表裏一体という認識に立った建前論です。解説すると次のような3つの場面がアンサンブル活動にあります。

場面A 音楽をやりたい! と思う場面 (情意面)

場面B 音楽の仕組みがわかった! と思う場面 (創意工夫面)

場面C 練習ポイントが分かり、さうぞ! と思う場面 (技能面)



このA、B、Cの3場面のループ (環状) で演奏が「充実」することになり、アンサンブル活動が「楽しく」なるのです。A→B→Cの順が自然の成り行きですが、BによってAが旺盛になったり、Cの充実からBの更なる深化がもたらされたりなど、順序が逆行する場合も当然あり得ます。というようにこれらは有機的に結び付いているのです。

場面Aでスタートを切ったけれど音楽が好きじゃなくなった、とか、音楽への憧れは一過性のものだった、とか、もっと別の価値ある趣味が見つかった、などで挫折感を覚えることもあるでしょう。それは、残念ながら場面BやCに立ち入れなかったからです。A、B、Cのループこそ音楽を続けていくための原動力であって、自力でそれに気付いたり、たまたま仲間へ教えられたりして、表面的な楽しさだけじゃないってことが理解出来るようにならなければ続けられるものではありません。

さあ、皆さん、本当のアンサンブルの楽しさをここから探ってみましょう!

アンサンブルのための基礎 ～ポップス合奏の実際～

①アンサンブルの役割分担を把握する。

どんな楽器で参加しても結構ですが、必ず次の3つの役割のどこかに属することを理解してください。

【主旋律セクション】

その曲の主立つメロディー（旋律）、顔となるメロディーを受けもつセクションです。

【副旋律セクション】

主旋律を支える機能を有したメロディー（対旋律、あるいは副旋律）や伴奏フレーズ（パターン）を受けもつセクションです。

【リズムセクション】

ポップスの場合、その曲を支えるジャンルとビート（拍）があります。

例1 4ビートでスウィングジャズ

例2 2ビートでサンバ

例3 8ビートでハードロック

等、それらの味わいや雰囲気やリズム伴奏を受け持つセクション。

一曲の中であっても途中で役割が移動することもあることを知っておくことも大切です。

また、その役割を変更し分割交代することにより、アンサンブル編成は自由にすることが可能です。つまり、3名編成でも10名編成でも、集まった楽器のメンバーでの演奏を楽しんで頂くことが可能となります。

例えば、管楽器／弦楽器／撥弦楽器／鍵盤打楽器／鍵盤楽器などのどんな楽器であっても、上記3つのセクションに分かれ、後はAメロ、Bメロ、Cメロなどの部分で、曲想を考慮し演奏パートを交代するなどの、皆のアイデアで合奏を楽しめます。

アンサンブル譜例

②自分の楽器の演奏音域と楽器固有の調性（Key）を知ること。

楽器は固有の音域と調性をもっています。例えばアルトサクソフォーン（A Sax）はアルトと呼ばれるぐらいですからアルト音域を、フルート（Fl）はソプラノ音域を遥かに上回る高音域を。クラリネット（Cl）はすごく便利でアルト音域もソプラノ音域もバッチリ ということに皆固有の音域をもっています。そしてさらに、自分の楽器の譜面上で発する音が実音（実際に鳴る音高）でどの高さなのかを知ることが大切です。

実音と記譜音 アーティキュレーション

記譜音

③音程とアーティキュレーションを全楽器で統一すること。

音程とアーティキュレーションを統一することは、音やフレーズに対して全員同じ「イメージ」をもつことで成立します。例えばチューニングする際、同じ音程を鳴らそうとする気持ちから、互いの息のスピードを同じくしたり、相手の音と自分の音の合致を「心の目で見る」というイメージで聴いたりします。

アーティキュレーションの統一の際では、音のつなげ方や切り方の状態をヴォカリーゼ（擬声語などの言葉で音を表す手法）で共感覚を得たりしながら成します。

このように統一を成し遂げるには先ず、中間の音を「聴く」という行為をしなければなりません。まさにアンサンブルの極意、「心の握手」です。

NPO法人ミッツ・音楽のある生活促進委員会・初心者、 blanksのある人、なかなか仲間が見つからないなど 演奏に自信が無くても、みんなで楽しく合奏する環境とソフトを構築し提供していくことをミッションとしています。

「生涯学習としての音楽とのかかわり方」の支援としての地方自治体とのコラボによる合奏講座の開講、Webによる講座の開講などの活動を行い、地域ごとの合奏サークル運営を支援し、活動が「楽しい」から演奏が「充実」する、逆に「充実」するから「楽しい」という、音楽を続けていく原動力をめざして活動をしています。